



後守容保

幕末〜明治初年における公武一体、  
七千件以上の人名・藩名データ集！

増補 幕末 重職補任 附諸藩一覽

続日本史協同叢書

マツノ書店

会津戦争記聞より松平容保

公武重職補任 開成所總奉行・外國奉行

開成所總奉行	川勝 廣道	安政六・八・二四日付ヨリ任	加藤 則著	慶應元・七・八任	大 關 増裕	慶應三・一・二任	稲垣 太清
外國奉行	水野 忠徳	安政六・八・二八日付ヨリ任	新見 正興	明治元・正・二三免	京 極 高富	明治元・正・一七軍奉行ヨリ任	勝 義邦
	永井 尚志	安政六・八・二八日付ヨリ任	溝口 直清	明治元・正・二三免	小笠原 長常	同 正・三陸軍總裁へ轉	八木 補職
	井上 清直	安政六・八・二八日付ヨリ任	赤松 範忠	慶應二・八・一五免	小栗 忠順	慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	松平 勝實
	堀 利照	安政六・八・二八日付ヨリ任	渡邊 孝綱	慶應二・八・一五免	菅 沼 定長	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	池田 頼誠
	岩瀬 忠震	安政六・八・二八日付ヨリ任	竹本 正雅	慶應二・八・一五免	土 岐 頼徳	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	久世 廣道
	村垣 範忠	安政六・八・二八日付ヨリ任	鳥居 忠善	慶應二・八・一五免	駒 井 朝温	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	大久保 教寛
	酒井 忠行	安政六・八・二八日付ヨリ任	小栗 忠順	慶應二・八・一五免	織 田 信愛	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	竹村 讓之助
			高井 道政	慶應二・八・一五免	服部 常純	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	井上 正常

内容見本 (70%縮小)

海軍奉行並	小笠原 長常	慶應二・八・一五免	大 關 増裕	慶應三・一・二任	稲垣 太清
	菅 沼 定長	慶應二・八・一五免	京 極 高富	明治元・正・一七軍奉行ヨリ任	勝 義邦
	土 岐 頼徳	慶應二・八・一五免	小笠原 長常	同 正・三陸軍總裁へ轉	八木 補職
	駒 井 朝温	慶應二・八・一五免	小栗 忠順	慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	松平 勝實
	織 田 信愛	慶應二・八・一五免	菅 沼 定長	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	池田 頼誠
	服部 常純	慶應二・八・一五免	土 岐 頼徳	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	久世 廣道
海軍總裁	井上 正常	慶應二・八・一五免	駒 井 朝温	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	大久保 教寛
			織 田 信愛	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	竹村 讓之助
			服部 常純	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	井上 正常

步兵奉行

步兵奉行	小栗 忠順	慶應二・八・一五免	水野 忠徳	慶應三・一・二任	稲垣 太清
	溝口 勝如	慶應二・八・一五免	井上 清直	明治元・正・一七軍奉行ヨリ任	勝 義邦
			木村 喜毅	同 正・三陸軍總裁へ轉	八木 補職
			内田 正徳	慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	松平 勝實
			松 平 乘原	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	池田 頼誠
			勝 義邦	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	久世 廣道
			堀 利孟	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	大久保 教寛
			小栗 忠順	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	竹村 讓之助
			木下 利義	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	井上 正常
			石野 則常	同 慶應二・九・四辭院番頭ヨリ任	

裁 A5判並製 四六八頁  
 予約特価 六千円(税・千共)  
 定 価 七千円(税・千別)  
 特価締切 25年11月30日厳守  
 発売 26年1月中旬  
 ▼書店不卸▼返本OK  
 山口県周南市銀座2-13  
 電話 〇八三四〇二二九五  
 マツノ書店



## 『増補 幕末明治重職補任付・諸藩一覽』

歴史作家 桐野作人

政治の内実や方向性は、ときに人事に表現されることがある。とりわけ、時代の転換期や変革期にはそれが顕著である。

幕末維新期はまさにそういう時代だった。朝廷や幕府の人事を見ると、まるで猫の目のようにめまぐるしく変わっており、こちらのほうが目が回りそうである。

実際、私も幕末維新史の原稿を書くとき、人名データを調べるのに戸惑ったり手間がかかることが多い。基礎的な事実確認に時間がかかるのである。私に限らず、多くの著述業や研究者ならみな経験したことだろう。

たとえば、武家では、桜田門外の変のときの老中の構成はどうなっていたか、京都所司代や外国奉行はどんな人事異動が行われたのか、旗本が任命されるようになった若年寄格はいつから設置されたのかとか。

一方、公家のほうでも、関白の人事がもっとも重要で、その補任や交代と朝廷の国事方針に対応関係があるかどうか、公家の重職である武家伝奏や議奏のメンバーはどのように入れ替わったかとか、あるいは新設された国事御用掛の初期メンバーは誰かとか、慶応二年（一八六六）の八・三〇列参運動に参加した公家衆二十二名はどのような人々か、その氏名、年齢、官位、家格、門流のつながりなどを本格的に調べ出すと膨大な手間となる。

そういう幕末の公家・武家にわたる煩雑な諸データを調べるときに本書があれば、とても便利である。

巻末にある森谷秀亮氏の解題によれば、本書はもともと、一九三九年（昭和一四）から四一年にかけて文部省所管の維新史料編纂会が刊行した『維新史』全五巻の附録の一部だった。この附録は①「維新史索引」、②「公武重職補任」、③「明治重職補任」、④「諸藩一覽」、⑤「公武・明治重職補任諸藩一覽索引」から成っていたが、そのうち①を除き、②～⑤を一冊にまとめたのが『幕末明治重職補任』である。

その後、森谷氏が「明治重職補任追加」を加えて増補したのが本書ということになる。というのは、増補以前は収録年数について不満があったと森谷氏はいう。「公武重職補任」と「明治重職補任」は孝明天皇が踐祚した弘化三年（一八四六）から廃藩置県が断行された明治四年（一八七二）までの重職を収録しているものの、明治国家が本格的に始動する廃藩置県以降が未収録であったからである。森谷氏は同十年（一八七七）の西南戦争までは収録すべきだと考えて、「明治重職補任追加」を増補したという。

この増補によって、本書は一層使い勝手がよくなっている。公武一体の人名データ集だと思ふ。

この種の人名データ集は、ふつう身分や属性別に編纂されて

いることが多い。たとえば、幕府の役職を調べるには、江戸時代の全期を通し、譜代大名や幕臣の任免を網羅した『柳宮補任』。公家の場合は、古代から明治元年まで三位と参議以上の上級公家を収録した『公卿補任』がある。明治期の大臣・官僚の人事を取り扱った『明治史料 頭要職務補任録』などもある。

これらはそれぞれに特色や長所はあるが、短所としては、これらの諸本を利用して、幕末維新から明治初期にかけての公家や武家、明治の役人を横断的に調べようとしたら大変な労力がかかることである。ところが、本書があれば、この一冊で大抵のこととは解決できるだろう。このコンパクト性が本書の最大の長所であり魅力なのだ。

本書の内容を見てみよう。武家の場合、上は征夷大將軍・大老・老中から下は目付・諸奉行まで、役職ごとに人名、任免の年月日、前職と後職、通称官名が時系列に沿って整然と配列されている。公家は摂政関白から大臣、議奏、武家伝奏といった近世の関白―両役体制から、国事御用掛、議奏加勢、国事参政、国事寄人など、幕末期に新設された役職まで網羅してある。また個々人の公家についても、任免時期、官位などのデータが時系列に沿って配列されている。

また明治期（元年～四年）についても、「明治重職補任」で、猫の目のような組織改変に沿い、三職七科、八局、太政官、二官六省とそれに属する諸官の人名・任用時期・帰属などをこれまた時系列に沿って配列してある。

「諸藩一覽」も重宝する。明治維新以後、諸藩も中央官庁に劣らず、府藩県になり、領域も合併や分離によってめまぐるしく変遷している。その流れを追うのに便利である。諸藩のデータも藩名、家格、席次、石高、任免、官位、藩主・藩知事名と充実している。なお、編纂者の森谷秀亮氏によれば、この種の本は完璧を期すのが無理で、気づいた所だけでも、②では勝義邦（海舟）、矢田堀鴻の役歴に間違いがある。③では工部、司法の二省が収録漏れで、二省の頭官名の記載が見当たらず、さらに明治初年新設の県名に盛岡県が抜け落ちているという。

さらに指摘すれば、年号表記の問題もある。たとえば、『公武重職補任』では、元治二年（一八六五）は四月七日に改元されて慶応元年となるが、元治二年の三カ月余も慶応元年と表記されていることには注意を要する。

これらの不備を割り引いても、本書の価値が下がるものではない。幕末維新期や明治草創期の公家・武家、役人（中央＋地方）を要領よく調べるには本書以上のものはないといっても過言ではない。本書を推薦するゆえんである。

朝廷と幕府に分けて江戸末期～明治初期  
高官の職名・人名・在位期間等を明示

明治重職補任(太政官)

太政官

右大臣

明治二・七・八輔相ヨリ任  
同 四・七・二九太政大臣へ轉

三條實美

明治二・七・八參與ヨリ任  
同 四・七・二四罷  
明治二・七・八越後府判事ヨリ任  
同 一・二・二兵部大輔へ轉

副島種臣  
佐賀藩士二郎

大納言

明治二・七・八議定ヨリ任  
同 四・七・一四外務卿へ轉

岩倉具視

明治二・七・二三民部大輔ヨリ任  
同 四・正・九遭難  
明治三・二・五刑部大輔ヨリ任  
同 四・六・二五罷

廣澤真臣  
長州藩士・兵助

明治二・七・八議定ヨリ任  
同 四・七・一四罷(麿香間祇候被命)

徳大寺實則

明治三・五・一五刑部大輔ヨリ任  
同 四・六・二五罷

齋藤利行  
土州藩士・渡邊彌久馬

明治二・八・一六開拓長官ヨリ任  
同 三・八・一四罷(麿香間祇候被命)

鍋島直正  
前佐賀藩主

明治三・六・一〇待詔院出仕ヨリ任  
同 四・六・二五罷(即日更任)

木戸孝允  
長州藩士

明治二・一・二〇留守長官ヨリ任(長官如故)  
同 三・一・二二罷

中御門經之

明治三・九・二大藏大輔ヨリ任  
同 四・六・二五罷

大隈重信  
佐賀藩士・八太郎

明治三・一〇・一二刑部卿ヨリ任  
同 四・七・二四罷(麿香間祇候被命)

正親町三條實愛

明治四・六・二五復任  
同 七・五・一三宮内省出仕

木戸孝允

參議

四〇

無数の切り口で構成された座右必備の書

「人名」のみならず「331藩」のデータも

諸藩一覽(會津・斗南・飯野・加州)

會津代

家門 澗間 三〇・〇〇〇

文政五・四承  
嘉永五・閏二・三卒

從四位下(文政五・一一)  
侍從(同)  
左中將(同)一〇・一〇・一一  
正四位下(天保三)

松平容敬  
慶三郎

同

同 同

嘉永五・閏二・二五承  
明治元年二月四日退隱  
明治元・二・七永預  
(同一・九・二八以特旨存家)

從四位下(弘化三・一一・一六)  
侍從(同)  
若狹守(同)  
肥後守(同)嘉永五・閏二・二五  
左少將(同)文久元・一・二二六  
左中將(同)文久元・一・二二六  
正四位上(慶應三・四・八・朝)  
止官位(明治元・正・一〇・三〇)

松平容保  
銚之丸・祐堂・芳山

斗南陸

(轉封明治二・九)

三〇・〇〇〇

明治二・一・一三承  
同 三・五・一五任藩知事  
同 四・七・一四廢藩

從五位下(文化一四・一一・一六)  
彈正忠(同)  
能登守(天保一四・一一・二二)

松平容大  
慶三郎

飯野上

譜代 帝鑑間 三〇・〇〇〇

文化一四・三・二四承  
嘉永元・三・一七卒

從五位下(嘉永三・一一・一六)  
彈正忠(同)

保科正五  
德五郎

同

同 同

嘉永元・七・一六承  
明治二・六・二二任藩知事  
同 四・七・一四廢藩

從四位下(文政五・一一・一六)  
左中將(同)  
參議(天保二・一一・二二・朝)  
從三位(安政二・一一・二二・朝)  
權中納言(元治元・五・一三)

保科正益  
威六郎

加州金澤

外様 大廊下 一〇・三三・七〇

文政五・一・二一承  
慶應二・四・四致任

從三位(元治元・五・一三)

前田齊泰  
(松平)

一〇

「人名索引」で「小栗上野介」の昇進ぶりを調べると

Table listing names and their corresponding page numbers in the index, including entries like 小栗忠高, 小栗忠順, 小栗忠順, etc.

Table listing names and their corresponding page numbers in the index, including entries like 勘定奉行, 男谷信友, 愛宕通旭, etc.

Table listing names and their corresponding page numbers in the index, including entries like 公武重職補任, 明治重職補任, etc.

Table listing names and their corresponding page numbers in the index, including entries like 安藤六二, 山口直信, 松平近韶, etc.

Table listing names and their corresponding page numbers in the index, including entries like 市橋長賢, 松平正之, 神保長興, etc.

内容見本 (70%縮小)

内容一覧

Table listing names and their corresponding page numbers in the index, including entries like 公武重職補任, 明治重職補任, etc.